2019年5月1日　第287号　(通刊418号)　　日　ロ　交　流

日ロ交流

発行　：特定非営利活動法人　日ロ交流協会
E-mail:nichiro@nichiro.org
Home Page http://www.nichiro.org
〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-14 麻布台マンション401号
Tel：03（5563）0626　Fax：03（5563）0752

徳永晴美先生講演会

山根 佳子

3月30日（土）、ロシア語会議通訳者として知られる徳永晴美先生の講演会『ロシアと日本の狭間で－通訳コミュニケーションの体験から』が行われた。今月までNHKラジオ『まいにちロシア語（応用編）』の講師でもあり、会場は満員、立ち見まで出た。鋭い語り口と痛快なユーモアに溢れる講演は、異文化と体当たりで勝負してきたプロフェッショナルの姿を映していた。

図らずも日本での進学を断念しモスクワ・ルムンバ大学へ。留学はカルチャーショックの連続。大戦で2,800万人余の犠牲者が出たソ連で、男性の代わりに女性が過酷な鉄道労働に携わっていた。結婚適齢期に周囲は男性皆無で「独身を受け入れざるを得なかった」と授業中涙ながらに語る恩師の人生を目の当たりにする。またあるときは、風呂敷包みを持てばロシア人から「お前は乞食か？」と言われ、得意のバレーボールで掛け声をかければ「黙ってプレーしろ」。自分の常識が覆され、頭が柔軟に物事の相対性を受け入れるようになった。実家への手紙には、「もうそちらではこたつが働いている（＝ｐａｂｏｔａｅｔ）季節ですね。」ソ連人学生と共に全科目をロシア語で学ぶうちに思考もロシア語化していったということだ。今もロシア語脳で考えて話しているという。

帰国後、通訳を始めると今度は日本語と葛藤した。日本語は表面構造と深層構造の乖離が大きく、字面を訳しても意味不明になる。例えば「やっぱり日本人はマグロだね（日本人＝マグロではない）。」「夜中に何度もトイレで目が覚める（話者はトイレで寝起きしない）。」文字通りの解釈で済むか否かは、公式会議や外交交渉時の重大な論点だ。かつて英語でも会議用語や公的なスピーチパターンの資料は僅少だった。そこで先生は実地経験を元に『ロシア語通訳読本』『ロシア語通訳コミュニケーション読本』を相次いで出版。誰かが作った道でなく、日本人による専門的ロシア語通訳という前人未到の領域での研鑽が、ゴルバチョフの国連演説同時通訳、エリツィンの北方領土問題討論の通訳等、センシティブな場での巧みな橋渡しを可能にしたのだ。

実学分野のみならず、トルストイ『復活』の一場面が、いくつかの翻訳と映画の同シーンと共に紹介された。カチューシャは男が去った瞬間、傍の少女（ｅｅ̈）を抱きしめたのではない。頭（ｅｅ̈＝女性名詞）を抱えて「行ってしまった！」と叫んだのだ。ロシア語を理解する時は必ず、誰かの翻訳を真似たり日本人の発想で決めつけず、自分の前提を疑いつつ、できる限り原文の内容そのものをありのまま受け取る作業に徹せねばならない。

引退も視野に、と仰ったが、ロシア語コミュニケーションにかける情熱はまだ半端ない。そんな徳永先生はとてもカッコよかった。

個人的な話だが、私が最初にロシア語を勉強したのは小学生の時。シルクロード（当時ソ連領）を旅したくてNHKテレビ『ロシア語会話』を見始め、その講師が徳永先生だった。その後ロシア語は断念したが、先生に教わったキリル文字と発音と前置格は忘れなかった。縁あって最近、勉強を再開した。ロシア語が扉を開いた世界は大きく、先生がおられなければこの喜びはなかったと思う。

講演後、著書『携帯版ロシア語会話とっさのひとこと辞典』に先生のサインをねだった。「これ買ってくれたんだ！（多く出回っていないから）だいぶ高値だったんじゃないの？」とおどける先生。お会いできて本当に嬉しかった。ありがとう、徳永先生。忘れられない一日になった。

お知らせ

●ロシア語クラス生徒募集中！見学希望の方ご連絡下さい。
平日クラス月4回¥5500×3ヶ月前納。
初級2（月）19:30-21:00、初級1（水）18:30-19:30
準中級会話（月）18:00-19:30、上級（土）10:00-11:30、

●テーマ別ロシア語第13回「祭り・祝日」
日時：2019年6月9日(日)13：30～16：30
場所：田町駅みなとパーク芝浦「リーブラ」2階学習室Ｄ2
費用：会員3,000円、一般4,000円
講師：オクサーナ・ピスクノーワ

●ロシアの歌と踊り練習日
日時：5月4日（土）、5月18日（土）14：00～16：00
場所：新橋「ばるーん」301号室

●第60回マトリョーシカ絵付け教室
日時：2019年5月19日（日）14：00～16：30
講師：菅野エレーナ
場所：田町駅みなとパーク芝浦「リーブラ」2階造形表現室
会費：3,000円（お好きな教材1セット、講師代、お茶代含む）

●マトリョーシカ展示、実演、体験会
日時：2019年6月24日（月）～25日（火）10：00～21：00
会場：秋葉原「書泉ブックタワー」展示会場
＊生徒とエレーナ先生の作品展示、ロシアチョコの販売あり。

●第51回　懇話会のお知らせ
鳩山紀一郎氏　講演会　『ロシアと私』
ロシアで学術交流を行いつつ民間ベースでの交流も深めた先生にロシアを語っていただきます。東大大学院博士号取得。東大大学院、モスクワ大の講師を経て現在長岡技術科学大准教授。
日時：6月15日（土）2:00～4:00（開場1:30）
会場：御茶ノ水YWCA会館217号室
JR御茶ノ水駅（千代田区神田駿河台1-8-11　03-3293-5423）
会費：会員／日ロ友好団体2,500円　一般3,000円　学生／ロシア人1,500円
懇話会スタッフ募集中：gene.masuda@s8.dion.ne.jp **益田まで。**
＊お問い合わせ、お申し込みは協会事務局まで
Tel：03-5563-0626　nichiro@nichiro.org

小金井公園イベントに参加して

クドウリアショフ・クリメンティ

日ロ交流協会会員の皆様、私の下記寄稿文をお読みしていただける皆様、Добрыйдень（こんにちは)!3月30日土曜日に行われた「小金井公園観桜と江戸東京たてもの園歴史的建造物見学会」に参加させていただきました、ロシア人のクドウリヤショフ＝クリメンティと申します。私は生後4ヶ月の年齢で来日し、現在23歳に至るまでの時間の殆どを日本で過ごしてきました。慶応義塾大学法学部卒の新社会人として日ロ民間の交流や通訳、翻訳の仕事に携わっています。NPO法人日本・ロシア協会事務局青年部の世話人もさせていただいており、今後も日本とロシアの親善に貢献する活動に関わってゆきたいと思っております。

この度は日ロ交流協会常任理事の益田様からお誘いいただきイベントに参加させていただきました。協会会員様、ご招待でお越しになった方々、ロシア大使館・通商代表部職員のご家族、参加者計80名以上もの大きな交流イベントで、大変盛況でした。

参加者の皆様と一緒に小金井公園の広場に到着後、野点の体験教室が始まりました。日本のお茶の文化と言うと一般的にお茶を屋内で飲むイメージが強いと思いますが、今回体験させていただきました「野点」は屋外で自然に身を置きながらお茶を愉しむもので、私も新たに知った日本文化の側面に新鮮さを感じさせられました。ロシアのご家族一団も、野点の先生からの説明に興味を持って聞いていた様子でした。私はその説明の通訳をさせていただきましたが、ロシア側からの質問も多く、この度の体験は確実に、ロシア人の方も日本の文化により一層興味を持つきっかけになったと思います。

野点体験が終わると見学会の参加者同士で歓談しながら昼食し、その後江戸東京たてもの園へと、小金井公園の中を歩いてゆきました。公園の桜は丁度満開な時期で大変美しい光景でした。移動の最中、この季節の景色を味わいながら参加者同士で会話し、楽しい時間を過ごしました。たてもの園の三井財閥の創始者三井八郎右衛門邸は圧巻でした。私も、大使館からお越しになっていたロシア人のご家族も邸の広さに感銘を受け、日本らしさも西洋らしさも入っているその当時の建物の美しさを楽しみました。

今回の交流会で企画されていました野点体験教室も江戸東京たてもの園の見学も、それぞれ日本文化の奥深い性質に触れることができる内容で、参加されたロシアのご家族、そして他の参加者の方々にもとても有意義で貴重な体験になったと思います。また、言語や文化の差異がある参加者の間で、一緒になって文化体験・見学を行ったことで、お互いに親密なコミュニケーションが取れたとも感じました。何より日本人とロシア人、その他の参加者で一緒になって春の訪れを祝うことができ、とても心地よい時間を過ごさせていただきました。来年以降もまた今回の見学会のように、日ロ交流協会のイベントで言語の境を超えてお花見ができる機会があれば嬉しい限りに思います。

素晴らしい春の一時を誠に有り難うございます。今後とも日ロ交流協会の活動のご盛栄を心より祈念致します。

（株式会社MBWロシアセンター本部長）

☆留学生便り（48）☆

ペテルブルグ留学(2)

岡村　洋輔

人々－людиという言葉と愛する－люблюという言葉が似ているなぁとなんとなく思っていた「ゼロから始めたロシア語」初心者ですがこの国はそういうことを勝手に考えることのできるところがあるように思います。「戦争と平和」のピエールが敬愛していたナポレオンに侵攻された失望、ロシア革命、ナチスに封鎖された壮絶な飢餓との戦いとその中で書かれ、演奏されたショスタコーヴィッチの交響曲７番・レニングラード、長い冷戦－地下鉄に乗ると本気で核戦争に備えていたことが実感されます－、ソビエトの崩壊…等々、街を歩いていてすれ違う母親やおじいちゃんに手を引かれて学校に行く底抜けに明るい子供たち、通勤や通学に急ぐ人々を見ていると同じ国の人たちに起きてきた出来事とはにわかに結び付きにくい気がします。

担任のセルゲイ先生は授業の中で良くロシアの歴史や文学、芸術について語るのですがそれに応えられないもどかしさ、おそらくずっと応えることはできないと思いますがせめて気持ちくらいは片言ででも伝えられるようになりたいと思っています。

ネヴァ河の氷もすっかり融けて風も春を感じさせるようになってきました。授業で会話の練習として他の生徒に質問をするのですが、自分の番に「春はいつ来ますか」と質問したら「もう来ています」という答えだったので、「日本は花が咲いて初めて春が来る」と言いたかったのですがそれは言えませんでした。それを言いたくて立ち尽くすもどかしさも勉強ですね。

辞書と首っ引きで遅くまで起きているので眼がますます悪くなってきてつらいものがあります。先日気の毒に思ってくれたのかユーリャ先生（厳しいけどきれいで優しい先生）が「ＹＯＳＵＫＥ」－皆そう呼びます－は宿題としてエルミタージュへ行くようにと言ってくれました。もちろん早速行くには行ったのですが日曜日ということもあってか混雑と広さで疲れました。膨大なギリシャ彫刻や「レンブラントの部屋」などのコレクションも感動的ですが、何よりツアーリーロマノフの冬宮としての建物の荘厳さに驚かされます。

ちょうど滞在期間の半分が過ぎようとしていますが肝心なロシア語の方はさっぱりで情けなくなります。いまだにスーパーやカフェで金額を言われる時にレジのディスプレイを見ないと間違えてしまいます。まして端数の小銭が無いかなど聞かれると頭が真っ白になってしまいます。したい会話と、直近の必要会話のギャップの大きさは考えるのも嫌になりますが、残り半分の滞在期間を少しでも頑張るしかありませんね。

通商代表部きもの体験交流

千葉 麻里

3月27日（水）午後2時から、毎年恒例のきもの体験交流が通商代表部のホールで行われました。主席代表夫人のエレーナ・エゴロワ様からの依頼で、国際婦人デーが過ぎた頃に皆さんの楽しみの日として設定されるものです。

同僚のきものの先生方（田中裕見子、小泉克子、林由美子）と千葉の4名で、床に敷き詰められたカーペットの上に、郵送したり持ち寄ったりしたきものを並べるところから始まります。きものを試着されるのはロシア連邦通商代表部の女性20名、男性4名、女児6名、男児2名。三々五々ホールに入ってきて好きなきものを選び、着付けが終わると外に出て行って写真を撮ります。

ちょうど桜が満開で晴れ渡っており、写真撮影にはとても良い季節でした。きものが出払うといつの間にか皆ホールを出ていて、なかなか帰ってきません。最近の傾向として、ご両親や子ども達といったご家族みんなで着て、記念写真に納まるというのが多くなっています。女性は違うきものも試してみたい、と2～3回着るということも増えました。桃色の女児のきものが人気で脱ごうとしないので、女の子たちは列を作って長時間待たされるということもありました。今年は黒留袖を持参した先生がいて、これも意外に人気でした。エレーナさんの息子さんと奥様が来日されており、お二人揃ってきものを着られ、いい記念になったと喜んで帰られたそうです。

理事の平野さんがたまたまお休みの日で、通訳を手伝ってくれたり、きものを畳んでくれたりと随分助けてくださいました。

片付けが終わると、こちらも恒例のご婦人方お手製のケーキやブリヌイなどで茶話会となります。珍しいお菓子の作り方など教えていただき、すっかりご馳走になりました。

最後にロシア製のハンドクリームをお土産にくださいました。着付けの仕事は手が荒れますが、きものを傷めないようにいつもたいへん気を遣います。良い物を頂戴しました。何より着付けに携わる者としては、きものを皆さんに喜んでいただけたのが一番嬉しいことでした。

着付けの先生方、色々と気を配ってくださったエレーナさんと通商代表部の皆様、有難うございました。（常任理事）

将棋は架け橋　Ｋｕｅｂ編

藤本 信義

難しい顔で考えに沈んでいたコルミエツ氏の表情が柔らかくなり、すっと右手が差し出された。私も右手を差し出してしっかりと握手する。将棋では「負けました」と言って一礼するがチェスでは投了（Resign）の時に握手をするのが習慣だ。早速感想戦が始まる。共通言語は英語だが将棋盤の上で駒を進めるだけで言葉はなくともお互いの思いは通じる。

米ソの宇宙競争のひとつとして始まったレーガン大統領時代（1980年代）の宇宙ステーション計画は冷戦の解消とともに今度は国際協力のシンボルとなった。国際宇宙ステーション（ISS）の建設では米ロに日欧加が協力し、一方で無重力を利用した科学実験においてはウクライナを介しての間接的な協力というのが当時の枠組みの一つだった。そこでウクライナに実験計画の関係者が集まることとなり我々日本のグループもＫｉｅｖを訪れた。ウクライナの将棋愛好家との交流はそのときのひとコマである。

2004年の10月半ばに訪れたＫｉｅｖの町はちょうど建設ラッシュに沸いていて活気があった。スターリン時代に建てられた無機質な外壁を取り壊し、ヨーロッパ風の優雅なファサードを持った街並みに作り直したいのだと説明された。大統領選挙前で政治的には緊張した雰囲気ではあったが、後にオレンジ革命と呼ばれる、このひと月あとに始まる動乱の予感はなく、町は治安もよく人々は陽気で夜遅くまでホテルのロビーでお互いに将棋を楽しんだ。私の滞在先のホテルを訪ねてきてくれたウクライナの将棋愛好家はコルミエツ氏含め3名、電子メールや電話で日時や場所についてのやり取りをして無事に出会うことができた。20世紀の後半の50年、数多くの世界チャンピオンを輩出したソ連はチェスの世界の王国だった。IBMの開発したチェスコンピューターDeep Blueと対峙したガーリ・カスパロフの名前を記憶されている方も多いと思う。ウクライナにも日本の将棋に関心を持つプレーヤーが誕生する下地が十分あったわけだ。インターネットがまだ十分でない時代、海外で将棋についての情報は限られていたが、チェスの実力をベースとして、日本の将棋の腕を磨きアマチュア四段の力を付けた強敵ばかりで、ぎりぎりの勝負を争ったのが懐かしい思い出である。

また対戦しましょうと言って別れてからあっという間に十五年の歳月が流れたが残念ながらその約束はまだ果たせないでいる。（2019年3月）

古流松藤会展

山岸　ひさ子

春爛漫、桜の開花にたいへん美しい季節になりました。古流松藤会は、4月10日から15日まで、1次、2次、3次の3回にわたり、2日間づつ入れ替えで、古流アカデミーにおいて「古流松藤会」展を開催いたしました。会場近くの伝通院境内の桜も満開で、一段と華やかさを増しておりました。

初日は雨で少々寒の戻りを感じられる中、千葉常任理事は友人のエカテリンブルグから来日されたマリーナさんと、草月流の松村先生をお連れいただき、ご一緒に観賞してくださいました。1階に飾られた家元、池田理英先生の大作（高さ2メートル位あったでしょうか？）、古木の柿の木に添えられたピンクの八重桜、その花留めにたいへん関心を示された松村先生は、家元に色々と質問しておられました。更に地下1階、2階の作品を観賞され、天、地、人の花型に深い関心をお持ちのご様子でした。

向かって左から家元、マリーナ、筆者、松村

平成最後の花展で、私も小さな作品「現代華」を3次に出品いたしました。他流と異なる現代華の花型も、他の流儀を拝見することにより参考にさせていただくことが多々あります。松村先生には3次（4月14日）、日曜日にも拘わらず再度、会場へご足労くださり、私の作品をご覧くださいました。お気遣いいただき、たいへん恐縮しております。坂本常任理事は松村先生にお会いできたことを喜ばれ、お二人で私の作品もお目を通していただきました。

また、ロシア大使館や通商代表部でお稽古していらっしゃる方々が、ご夫婦やご家族でご来場くださいました。坂本常任理事には、3次の二日間をお付き合いいただき感謝しております。ありがとうございました。

古流松藤会の会館での華展でしたので、特別大きな作品は少なかったものの、天、地、人、三才和合の伝統を受け継いできた古流の「生花」様式、個性的な表現をする「現代華」、何れも終わりのない挑戦に思われ、奥深いものを感じます。

（常任理事）

リャザン留学記

長島　さくら

私は現在、モスクワから約2～3時間のところにあるリャザンという街で、昨年夏から留学をしています。私は高校でロシア語を少し学び、その後大学では全くやっていなかったのですが、もう一度勉強したいと思い、思い切ってここにやって来ました。リャザン大学は、安く個人でも留学することができ、都会からは少し離れた落ち着いた環境で勉強したかった私にとっては、まさにぴったりの場所でした。

最初の8月はサマースクールに参加し、その後本格的に授業が始まりました。私のクラスは、ロシア語準備学部という、大学に入る前の留学生がロシア語を学ぶクラスのため、トルクメニスタン人や中国人の学生と一緒に日々勉強をしています。授業は月曜から土曜まで毎日あり、当然ながら常に宿題もたくさんあるので、ほぼ大学と寮の往復ではありますが、ロシア語漬けの充実した毎日を送っています。また、プラスで他学部のロシア語の授業も受けることができるので、時間があれば行ったりもしています。最初はほぼ何にも分からなかった私が、今ではロシア語でロシア語を理解することが少しずつですができるようになってきて、改めて現地で言語を学ぶことの大切さを日々感じています。

リャザン大学正門近くの学生像

リャザン大学には、日本語を勉強しているロシア人の学生が多くいます。そのため大学では、彼らが運営している日露クラブの活動などを通して彼らと関わる機会が多くあるため、彼らとはとても仲良くしています。クラブの活動以外にも、授業と授業の合間に一緒に勉強して、お互いロシア語と日本語を教えあったり、休日は誰かの家でよくみんなで集まって、ロシア料理を一緒に作ったりしています。

またリャザンでは、大学内、そして大学外でも国際的なイベントがよく行われているため、様々な国の学生と交流する機会が多くあります。特に、リャザンにはトルクメニスタンやウズベキスタンなど中央アジアの国々から来ている学生も多いため、日本にいたら絶対に出会うことのないような国の人々と友達になることができ、彼らの文化を知ることは非常に興味深いです。また、自ら日本文化を紹介する機会も多いのですが、自分が思っていた以上に多くの人が本当に日本に興味を持ってくれていて、その度に、日本という国の面白さにも気づかされることが多くあります。これもロシアに来ていなかったら、きっと分からなかったことだったと思います。

逆に、リャザンでは日本に比べたら不便なことも多いけれど、スーパーで知らないおばさんが「その牛乳はおいしくないからやめた方がいいわよ！」と急に教えてくれたり、先生が授業中に、より頭を働かせられるようにといつもチャイとお菓子をくれたり、日常の中でホッと心が温かくなる瞬間が多くあり、毎日が本当に面白いです。留学生活も残り4か月となりました。気温も温かくなってきたので、今まで以上に一日一日を楽しく大切に過ごしていきたいと思います。